

ちよつといひ話

～ 依 所 ～

info@zennyu-in.or.jp

我々の人生には到る所に依所えしよがあつてしかるべきです。依所とは身を立てる、身を守る場所であります。仕事の会社ですし、少年達には学校でしょう。社会生活を営む人間には家庭が最も大切な依所でしょう。しかしながら時として、家庭がその機能を果たしていない。過日起きた事件もそうです。その事件は7月16日ハイウェイ(expressway)の美合パーキングにて14歳の少年ハイジャッカー(hijacker)が逮捕されました。JRの高速バスの乗員、乗客共に無事保護され皆様もほっとされた事でしょう。両親に叱られた少年は、自分のメンツを失った恨みを親に抱き、親の失脚を願い、一凶に親に対する反感と反発を日本国民に犯罪を以って知らしめようと考え行動を起こしたのでしょう。不幸にも、その結果は家族全員のメンツを失う事に成ってしまいました。こうなる事を少年は理解していたのでしょうか？少年の家庭に依所としての役割はなぜ無かったのか？少年の家に仏壇や神棚があり、礼拝していただろうか。手を合あいわわし相和する思いやりの教育が出来ていただろうか？今や分散型の家族(核家族)構成が多くなつたとはいえ、たとえ分家であろうと神佛の祀り事をしっかりやってほしいと思います。なんとなれば、人間が人間を指導するには限界かんべきがあり、完璧を求めるのは無理だからです。事が起きると評論家と言われる先生方は色々な御意見を述べられますが人間「10人集まれば10色になります」個々の問題を解決する事は不可能だと思われまわがまます。基本的に人間は我儘になつており、自画自賛型の人、反対に自閉し、「うつ病」に罹る人も多くなつたそうです。私は今や人間が真じかくの自覚に目覚めてくれる事を祈っております。日本社会の現状かんがを鑑みますと、現状を打破する為には神、佛に登場して戴くほかは無いと私は思います。神佛の教えに従えば行動の間違ひは無くなるからです。神佛に見守られ国民が安心して暮らせる社会、来月はお盆ぶつとくが来ます先祖の供養をして仏徳円満なる家庭を作りまじん しんしょう。 深 心 善入院油掛地藏尊